

第 3 編 道 路 編

1 章 舗装工

2 章 付属施設工

3 章 道路維持修繕工

4 章 鋼橋上部工

5 章 コンクリート橋上部工

6 章 鋼製橋脚設置工

7 章 橋台・橋脚工

8 章 橋梁補修工

9 章 トンネル工

10 章 共同溝工

1 章 舗装工

- 1.1 不陸整正
- 1.2 路盤工
- 1.3 アスファルト舗装工
- 1.4 半たわみ性（コンポジット）舗装工
- 1.5 コンクリート舗装工
- 1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工
- 1.7 排水性アスファルト舗装工
- 1.8 透水性アスファルト舗装工
- 1.9 グースアスファルト舗装工
- 1.10 薄層カラー舗装工
- 1.11 橋面防水工
- 1.12 踏掛版工

1章 舗装工

1.1 不陸修正

1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の不陸修正に適用する。

2. 数量算出項目

路床及び路盤の不陸修正の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料の規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			補足材料 の有無	補足材料 平均厚さ	補足材料 の規格	単位	数量	備考
不陸修正		B	○	○	○	m ²		
不陸修正 (ICT)		B	○	○	○	m ²		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに3次元設計データ若しくは不陸修正の3次元計測データがある場合における補修材の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。

平均厚さ＝体積/面積

体積については、3次元CAD等を用いた場合によることを標準とする。

1.2 路盤工

1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

2. 数量算出項目

下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、仕上り厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/ CIM モデル	属性情報								
			規格 (材料)	仕上り厚		施工 区分	平均 幅員	瀝青材 料種類 ・締固め 後密度	単 位	数 量	備 考
				一層当 り平均 仕上り 厚 (mm)	全仕上 り厚 (mm)						
下層路盤（車道・路肩部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
下層路盤（歩道部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
上層路盤（車道・路肩部）		B	○	○	○	○	○	○	m ²		
上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		B	○	—	○	○	○	—	m ²		
上層路盤（歩道部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		

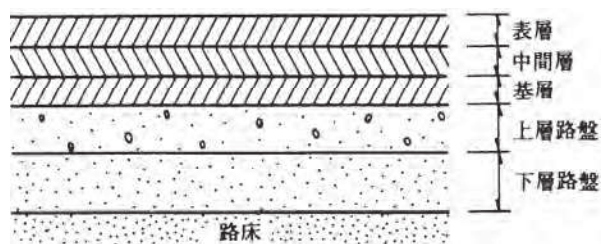
BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 上層路盤（車道・路肩部）における仕上り厚区分について、規格（材料）が瀝青安定処理材の場合は「一層当たり平均仕上り厚」、粒度調整砕石の場合は「全仕上り厚」を適用する。

(2) 仕上り厚さ区分及び規格区分

路盤の仕上り厚さ及び材料の規格（粒調砕石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。

(アスファルト舗装の構成例)



(3) 平均幅員区分

- ① 1.4 m未満
- ② 1.4 m以上3.0 m以下
- ③ 3.0 m超

(4) 施工区分

- ① 1層施工
- ② 2層施工
- ③ 3層施工
- ④ 4層施工
- ⑤ 5層施工
- ⑥ 6層施工

(5) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の仕上り厚さの算出は、以下のとおりとする。

仕上り厚さ＝体積/面積

体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 BIM/CIMモデルによる数量算出方法によることを標準とする。

1.3 アスファルト舗装工

1. 適用

アスファルト舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカーブに適用する。
 なお、アスファルト混合物が現地プラント方式の場合、アスファルト混合物の締固め後密度が
 1. 90 t/m³未満、2. 50 t/m³以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

車道・路肩部、歩道部の別に基層、中間層、表層の面積を、アスカーブの延長をそれぞれ区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、基層・中間層・表層1層当りは平均仕上り厚、平均幅員、規格、瀝青材料種類とし、アスカーブは断面積、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	BIM/ CIM モデル	属性情報							
		1層当り平均仕上り厚 (mm)	平均幅員	断面積	規格 (材料)	瀝青材料種類	単位	数量	備考
基層 (車道・路肩部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
中間層 (車道・路肩部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
表層 (車道・路肩部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
基層 (歩道部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
中間層 (歩道部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
表層 (歩道部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
アスカーブ	B	—	—	○	○	—	m		

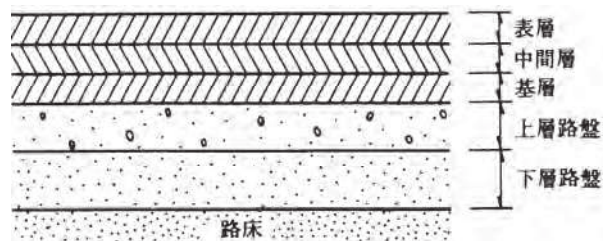
BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 1層当り平均仕上り厚及び規格・瀝青材料種類区分

舗装の厚さ及び材料の規格(再生密粒As13、再生粗粒As20、再生As安定処理路盤等)、瀝青材料種類(タックコート、プライムコート等)ごとに区分して算出する。

材料の規格は締固め後密度も示す。

(アスファルト舗装の構成例)



(3) 平均幅員区分

平均幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ① 1.4 m未満
- ② 1.4 m以上3.0 m以下
- ③ 3.0 m超

1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工

1. 適用

開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。
 なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。

2. 数量算出項目

セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

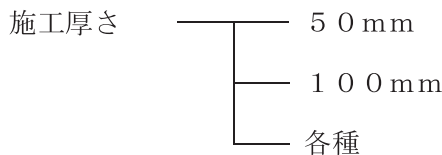
区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

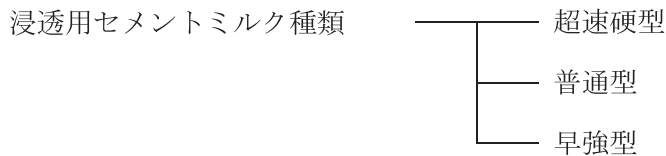
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			施工厚さ	浸透用セメント ミルク種類	浸透用セメントミ ルク使用量 (ℓ/100m ²)	単位	数量	備考
セメントミルク 浸透		B	○	○	○	m ²		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。



(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。



関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
表層(車道、路肩部)	B	m ²		「第3編(道路編) 1.3アス ファルト舗装工」参照

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」による。

1.5 コンクリート舗装工

1. 適用

コンクリート舗装工（連続鉄筋コンクリート舗装工・転圧コンクリート舗装工は除く。）に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地、横目地の数量を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工方法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報						
		施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施 工 方法	単 位	数 量	備 考
コンクリート舗装	B	○	○	○	○	m ²		
鉄 網	B			○		m ²		舗装100m ² 当たり
鉄 筋 鉄 網	B			○		t		〃
補 強 鉄 筋	B			○		t		〃

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

2) 縦目地

区 分 項 目	BIM/CIM モデル	属 性 情 報						
		施 工 箇 所	舗 装 厚	規 格 (材 料)	施 工 方 法	単 位	数 量	備 考
タ イ バ ー	B	○	○	○	○	本		目地1000m当たり
ねじ付タイバー	B			○		本		〃
ク ロ ス バ ー	B			○		kg		〃
チ ェ ア ー	B			○		個		〃
目 地 板	B			○		m ²		〃
注 入 目 地 材	B			○		kg		〃
シ ー ル 材	B			○		kg		〃
木材又はL型 プラスチック材	B			○		m		〃

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

3) 横目地

区 分 項 目	BIM/CIM モデル	属 性 情 報						
		施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施工 方法	単位	数量	備 考
スリップバー	B	○	○	○	○	本		目地1000m当たり
キャップ付 スリップバー	B			○		本		〃
クロスバー	B			○		kg		〃
チェアー	B			○		個		〃
目 地 板	B			○		m ²		〃
注入目地材	B			○		kg		〃

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(コンクリート舗装の構成)



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、下表のとおりとする。

施 工 方 法	
機械施工	① 1車線施工
	② 2車線施工
人力施工	

1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工

1. 適用

連続鉄筋コンクリート舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地の数量を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
			施工 箇所	舗装厚	規格 (材料)	単位	数量
コンクリート舗装	B		○	○	○	m ²	
鉄筋	B				○	t	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 目地切り・清掃が必要な場合は延長 (m) を算出する。

2) 縦目地

縦目地については、「第3編（道路編）1.5 コンクリート舗装工」によるものとする。

3) 横目地

横目地については、必要に応じて「第3編（道路編）1.5 コンクリート舗装工」によるものとする。

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(連続鉄筋コンクリート舗装の構成)



1.7 排水性アスファルト舗装工

1. 適用

車道における排水性アスファルト舗装工事に適用する。
 なお、平均施工幅員が1.4m未満の場合において、1層当り平均仕上り厚が50mmを超える場合、平均施工幅員が2.4m以上の場合において、1層当り平均仕上り厚が65mm以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

排水性アスファルト舗装面積、導水パイプ延長を区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、平均施工幅員、1層当り平均仕上り厚、導水パイプの設置の有無、片側車線数、規格、瀝青材料の規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/ CIM モデル	属性情報							備考	
			平均 施工 幅員	1層当 り平均 仕上り 厚 (mm)	導水パ イプの 設置の 有無	片側 車線 数	規格 (材 料)	瀝青 材料 の規 格	単 位		数 量
排水性舗装・ 表層 (車道・路肩部)		B	○	○	○	○	○	○	m ²		
導水パイプ		B		—				○	m		平均施工 幅員1.4 m未満

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 平均施工幅員

平均施工幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ① 1.4m未満
- ② 2.4m以上

(3) 規格区分

材料の規格を示すとともに、締固め後密度も示す。

1.8 透水性アスファルト舗装工

1. 適用

歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1. 2路盤工」により算出する。

3. 区分

区分は、平均幅員、1層当り平均仕上り厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			規格 (材料)	平均 幅員	1層当り平 均仕上り厚	単位	数量	備考
フィルター層		B	○	—	○	m ²		
透水性アスファルト舗装		B	○	○	○	m ²		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 規格区分

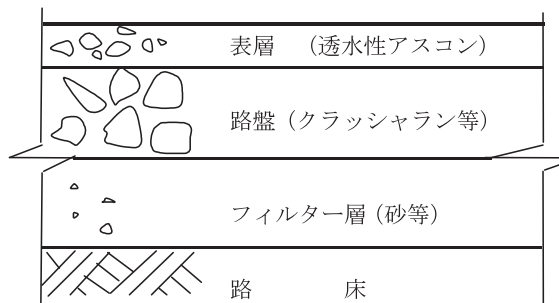
材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）、締固め後密度も示す。

(3) 平均幅員区分

透水性アスファルト舗装の平均幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ① 1. 4 m未満
- ② 1. 4 m以上 2. 4 m未満
- ③ 2. 4 m以上

(透水性アスファルト舗装の構成例)



1.9 グースアスファルト舗装工

1. 適用

グースアスファルト舗装に適用する。

2. 数量算出項目

グースアスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、舗装厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			舗装厚	規格	単位	数量
グースアスファルト舗装		B	○	○	m ²	
プレコート砕石		B	—	○	kg	
目地材		B	—	○	m	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 舗装厚区分

グースアスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) プレコート砕石・目地材の数量は、グースアスファルト舗装100m²当り必要量を算出する。

1.10 薄層カラー舗装工

1. 適用

薄層カラー舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・舗装厚とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

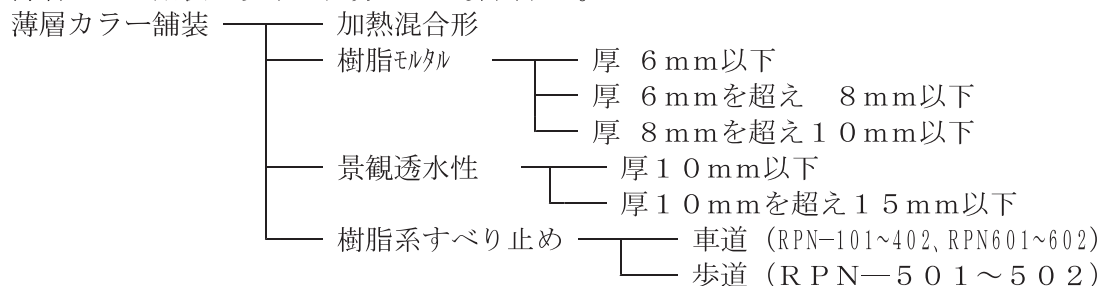
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格・舗装厚	単位	数量
薄層カラー舗装		B	○	m ²	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 薄層カラー舗装は以下の区分により算出する。



(注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様別に区分して算出する。

2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。

(2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編）1章舗装工 1.3 アスファルト舗装工」による。

1.11 橋面防水工

1. 適用

シート系防水（アスファルト系）、塗膜系防水（アスファルト系）による橋面の防水工に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
橋面防水	B	○	m ²		
ドレーン材	B	○	m		防水100m ² 当たり
目地材	B	○	m		〃

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 規格区分

シート系防水及び塗膜系防水ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。

1.12 踏掛版工

1. 適用

厚さ0.35m以上0.6m以下の現場打ちの踏掛版の設置に適用する。
ただし、主たる鉄筋が太径鉄筋（D38以上D51以下）の場合には適用しない。

2. 数量算出項目

コンクリート体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、鉄筋量、ゴム支承の有無、鉄筋材料規格・径とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			コンクリート 規格	鉄筋 量	ゴム支承 の有無	鉄筋材料 規格・径	単位	数量
踏掛版	A		○	○	○	○	m ³	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。
2. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当りの鉄筋量とする（スパイラル筋は含まない）。
3. 路盤材の敷設は含まない。
4. コンクリートのロスを含む。

(2) 鉄筋量区分

- ① 0.08 t/m³以上 0.10 t/m³未満
- ② 0.10 t/m³以上 0.12 t/m³未満
- ③ 0.12 t/m³以上 0.14 t/m³未満
- ④ 0.14 t/m³以上 0.16 t/m³未満
- ⑤ 0.16 t/m³以上 0.18 t/m³未満
- ⑥ 0.18 t/m³以上 0.20 t/m³未満
- ⑦ 0.20 t/m³以上 0.22 t/m³未満
- ⑧ 0.22 t/m³以上 0.24 t/m³未満
- ⑨ 0.24 t/m³以上 0.26 t/m³未満
- ⑩ 0.26 t/m³以上 0.28 t/m³未満
- ⑪ 0.28 t/m³以上 0.30 t/m³未満
- ⑫ 0.30 t/m³以上 0.32 t/m³未満
- ⑬ 0.32 t/m³以上 0.34 t/m³未満

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「第1編（共通編）2章土工」によるものとする。

2 章 付属施設工

2.1 排水構造物工

- 2.1.1 排水構造物工（プレキャスト製品）
- 2.1.2 排水構造物工（現場打ち水路）
- 2.1.3 排水構造物工（現場打ち集水樹・街渠樹）

2.2 防護柵設置工

- 2.2.1 防護柵工
- 2.2.2 ワイヤロープ設置工
- 2.2.3 立入防止柵工
- 2.2.4 車止めポスト設置工
- 2.2.5 防雪柵設置・撤去工
- 2.2.6 雪崩予防柵設置工
- 2.2.7 防雪柵現地張出し・収納工

2.3 落石防止工

- 2.3.1 落石防止網工
- 2.3.2 落石防護柵工

2.4 標識工

2.5 道路付属施設工

- 2.5.1 区画線工、高視認性区画線工
- 2.5.2 路側工
- 2.5.3 境界工
- 2.5.4 道路付属物工

2.6 しや音壁設置工

2.7 組立歩道工

2.8 道路植栽工

- 2.8.1 道路植栽工

2章 付属施設工

2.1 排水構造物工

2.1.1 排水構造物工(プレキャスト製品)

1. 適用

排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュウムを含む）、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、PC管、自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水桝、コルゲートパイプ、コルゲートフリュウム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。

2. 数量算出項目

排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① ヒューム管（B形管）

区分 項目	BIM/CIM モデル	属性情報								
		作業 区分	管 径	固定 基礎	基礎 碎石 の有無	規格	生コン クリート 規格	単位	数量	備考
ヒューム管 (B形管)	B	○	○	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. ヒューム管、B形管（ソケット管）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

②ボックスカルバート

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報							
			作業 区分	製品 長	内空幅 ・ 内空高	基礎材 種別	P C鋼材に よる締固め	単位	数量	備考
ボックス カルバート		B	○	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート（内空断面が台形タイプの物を含む）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする。
4. 縦締めは、直線部にのみ適用する。
5. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
6. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。

③暗渠排水管

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報						
			作業 区分	管種別	呼び径	継手材料費	単位	数量	備考
暗渠排水管		B	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は、別途考慮する。

④フィルター材

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			フィルター材の種類	単位	数量	備考
フィルター材		A	○	m ³		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材（クラッシュラン・単粒度碎石等）の敷設の場合である。

⑤管（函）渠型側溝

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			作業 区分	内径又は 内空幅	基礎碎石の 有無	単位	数量	備考
管（函）渠型側溝		B	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑥プレキャスト集水桝

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
プレキャスト集水桝		B	○	○	○	基		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. プレキャスト製集水桝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 蓋版の有無にかかわらず適用できる。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑦鉄筋コンクリート台付管

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
			作業区分	管径	単位	数量	備考
鉄筋コンクリート台付管		B	○	○	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 断面が卵形の場合の管径は、内幅とする。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑧プレキャストL形側溝

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			作業区分	基礎碎石の有無	L型側溝の種類	単位	数量	備考
プレキャストL形側溝		B	○	○	○	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. プレキャスト製L形側溝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑨プレキャストマンホール

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
プレキャストマンホール		B	○	○	○	基		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. プレキャスト製マンホールの据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑩ PC管

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報						
			作業 区分	管径	固定 基礎	生コンクリート 規格	単位	数量	備考
PC管		B	○	○	○	○	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. PC管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。

2. 撤去作業、据付・撤去作業は、PC管のみを対象としている。

⑪ コルゲートパイプ

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報						
			作業 区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考
コルゲートパイプ		B	○	○	○	○	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫ コルゲートフリューム

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
			作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム		B	○	○	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

(2) 施工箇所区分

施工箇所区分は、下表のとおりとする。

項目	施工箇所区分
U 型 側 溝	一 般 部
	法 面 小 段 面 部
	法 面 縦 排 水 部
蓋 版	一 般 部
	法 面 小 段 面 部

(3) 基礎区分

必要性の有無：基礎碎石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。

数 量：必要に応じて、基礎碎石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。

- ・基礎碎石は、「第1編（共通編）9. 1基礎・裏込砕石工」により数量を算出する。

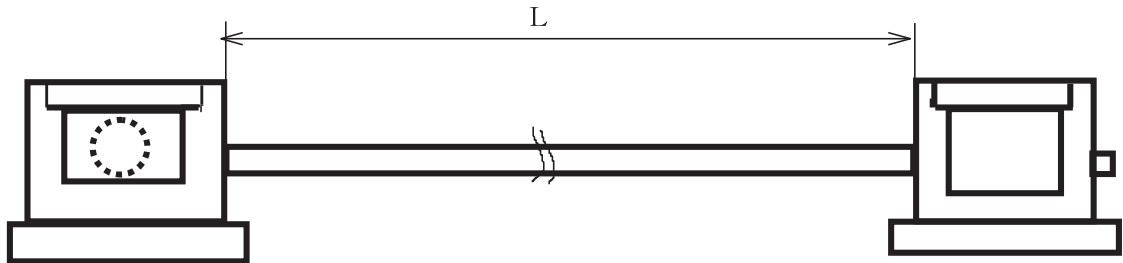
- ・均し（基礎）コンクリートは、「第1編（共通編）4. 1コンクリート工」により数量を算出する。

- ・コルゲートパイプ、コルゲートフリュームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。



(2) 各項目の土工（床掘り・埋戻し）、自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は、別途算出する。

2. 1. 2 排水構造物工(現場打ち水路)

1. 適用

現場打ちのU型側溝(本体)(落蓋型を含む)に適用する。

2. 数量算出項目

現場打ち水路(本体)の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、内空高、10m当りコンクリート使用量、コンクリート打設工法、養生工の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報							
			コンクリート規格	内空高	10m 当り コンクリート 使用量	コンクリート 打設 工法	養生工 の種類	単位	数量	備考
現場打ち水路(本体)	A		○	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。

2. 1. 3 排水構造物工(現場打ち集水枡・街渠枡)

1. 適用

現場打ちの集水枡・街渠枡（本体）に適用する。

2. 数量算出項目

現場打ち集水枡・街渠枡（本体）の箇所数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、1箇所当りコンクリート使用量、コンクリート打設工法、養生工の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報						
			コンクリート 規格	1箇所 当り コンクリート 使用量	コンクリート 打設 工法	養生工 の種類	単位	数量	備考
現場打ち 集水枡・街渠枡(本体)	A		○	○	○	○	箇所		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。

2.2 防護柵設置工

2.2.1 防護柵工

1. 適用

ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブル及び横断・転落防止柵の設置工及撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブル及び横断・転落防止柵の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、設置形式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格	設置形式	単位	数量
ガードレール		B	○	○	m	
ガードパイプ		B	○	○	m	
ガードケーブル		B	○	○	m	
横断防止柵		B	○	○	m	支柱間隔別に算出

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 設置形式区分

1) ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブルの設置形式による区分は、下記のとおりとする。

- ① 土中建込用
- ② コンクリート建込用

2) 横断・転落防止柵の設置形式による区分は、下記のとおりとする。

- ① 土中建込用
- ② コンクリート建込用
- ③ プレキャストコンクリートブロック建込用（基礎ブロック質量100kg/個未満）
- ④ プレキャストコンクリートブロック建込用（基礎ブロック質量100kg/個以上）
- ⑤ アンカーボルト固定用

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ガードレール

- ① ガードレールの延長は、袖レールを含む延長とする。
- ② 耐雪型の設置において、ビーム補強金具が必要な場合は別途算出する。

(2) ガードケーブル

ガードケーブルの延長は、端末支柱間とし、中間（端末）支柱の本数も算出する。

(3) 土工、コンクリート基礎、根巻コンクリート及び舗装版の穴あけが必要な場合は別途算出する。

(4) 施工箇所ごとに数量を算出し、項目別に合計延長を算出する。

2.2.2 ワイヤロープ設置工

1. 適用

高規格幹線道路暫定2車線区間の土工部及び橋梁部におけるワイヤロープ式防護柵設置に適用する。

ただし、未供用の橋梁部は適用範囲外とする。

2. 数量算出項目

端末基礎・端末金具の箇所数、中間・端末支柱、橋梁部基礎・支柱の本数、ワイヤロープの延長、ターンバックルの箇所数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① 端末基礎・端末金具

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
			規格	適用 種別	設置 形式	単位	数量
端末基礎・金具		B	○	○	○	箇所	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

標準外については、備考に1箇所当たりの本数及び資材の内訳を明示し、区分して算出すること。

② 中間・端末支柱、橋梁部基礎・支柱

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
			規格	適用 種別	設置 形式	単位	数量
中間・端末支柱		B	○	○	○	本	
橋梁部基礎・支柱		B	○	○	—	箇所	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

標準外については、備考に1本（箇所）当たりの資材の内訳を明示し、区分して算出すること。

③ ワイヤロープ

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格	適用 種別	単位	数量
ワイヤロープ		B	○	○	m	

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

標準外については、備考に1m当たりの本数を明示し、区分して算出すること。

④ターンバックル

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			規格	適用 種別	設置 箇所	単位	数量	備考
ターンバックル		B	○	○	○	箇所		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

標準外については、備考に1箇所当たりの本数及び資材の内訳を明示し、区分して算出すること。

(2) 適用種別

適用種別は、下記のとおりとする。

- ①Am種
- ②Bm種
- ③LD種

(3) 設置形式

設置形式は、下記のとおりとする。

- ①鋼管基礎
- ②コンクリート基礎
- ③根固めブロック・鋼管基礎

(4) 設置箇所

設置箇所は、以下のとおりとする。

- ①中間部
- ②端末部

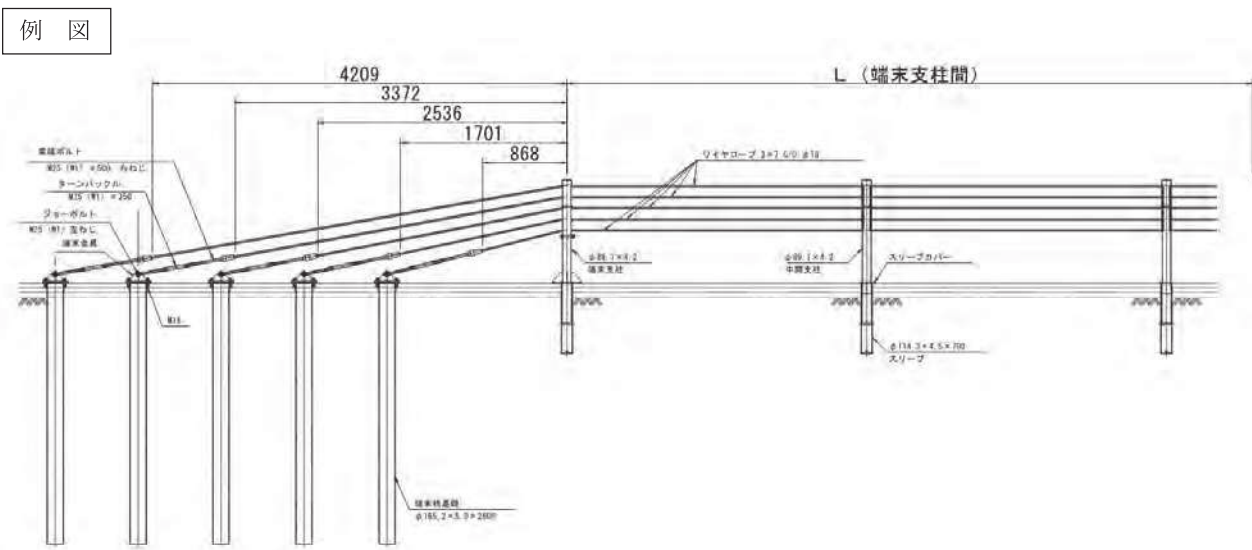
4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

作業土工の算出は「第1編（共通編）2章土工」、コンクリート・型枠の算出は「第1編（共通編）4章コンクリート工」、舗装版の削孔・切断・破碎の算出は「第1編（共通編）10章構造物取壊し工」、床版処理の算出は「第3編（道路編）1章舗装工」によるものとする。

(1) 端末部におけるワイヤロープ延長のとり方は、下図のとおりとする。

端末部は端末支柱から索端金具の先端までの距離を平均し算出すること。



2.2.3 立入防止柵工

1. 適用

立入防止柵の基礎ブロック、鋼管基礎、金網・支柱、支柱、門扉の設置に適用する。

2. 数量算出項目

基礎ブロック、鋼管基礎の基数、金網・支柱の延長、支柱の本数、門扉の基数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①基礎ブロック、鋼管基礎

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報						
			規格	構造物 種別	支柱柵高 門柱高	基礎砕石 の有無	単位	数量	備考
基礎ブロック		B	○	○	—	○	基		
鋼管基礎		B	○	—	○	—	基		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

②金網・支柱（立入防止柵）、支柱（立入防止柵）

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					単位	数量	備考
			規格	基礎 種別	支柱 柵高	支柱 間隔				
金網・支柱（立入防止柵）		B	○	○	○	○	m			
支柱（立入防止柵）		B	○	○	○	—	本			

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

③門扉

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				数量	備考
			規格	門扉種別	門柱高	単位		
門扉		B	○	片開き	○	基		
				両開き	—	基		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 構造物種別

構造物種別は、下記のとおりとする。

- ①金網柵
- ②門扉

(3) 支柱柵高、門柱高

支柱柵高、門柱高は、下記のとおりとする。

- ①2 m以下
- ②2 mを超え2.5 m以下

(4) 基礎砕石の有無

基礎砕石の有無については、下記のとおりとする。

- ①無し
- ②有り (敷均し厚10 cm)
- ③有り (敷均し厚20 cm)

(5) 基礎種別

基礎種別は、下記のとおりとする。

- ①基礎ブロック
- ②鋼管基礎

(6) 支柱間隔

支柱間隔は、下記のとおりとする。

- ①1.5 m
- ②2 m

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) 基礎ブロック、鋼管基礎については総基数、金網・支柱については総延長、支柱については総本数、門扉については総基数を区分ごとに算出する。

2.2.4 車止めポスト設置工

1. 適用

車止めポストの設置工に適用する。

2. 数量算出項目

車止めポストの本数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
			規格	作業区分	単位	数量	備考
車止めポスト		B	○	○	本		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 基礎の設置は、含まない。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。

2.2.5 防雪柵設置・撤去工

1. 適用

防雪柵の設置及び撤去に適用する。

2. 数量算出項目

防雪柵、防雪柵（材料費）の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分、形式、取付方式、柵高とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

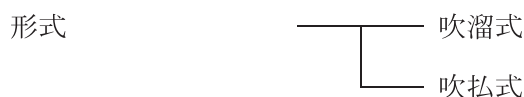
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報							
			規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考
防雪柵		B	○	○	○	○	○	m		
防雪柵（材料費）		B	○	×	×	×	×	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

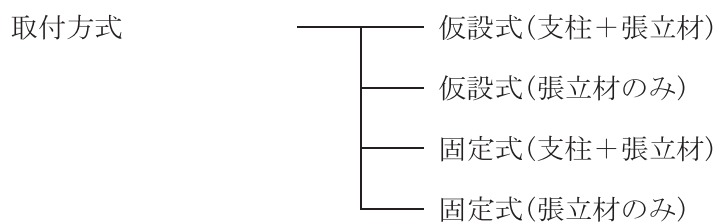
(2) 防雪柵の作業区分



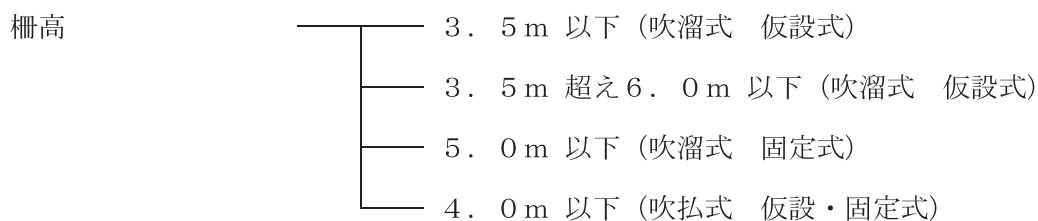
(3) 防雪柵の形式による区分



(4) 防雪柵の取付方式による区分



(5) 防雪柵の柵高による区分



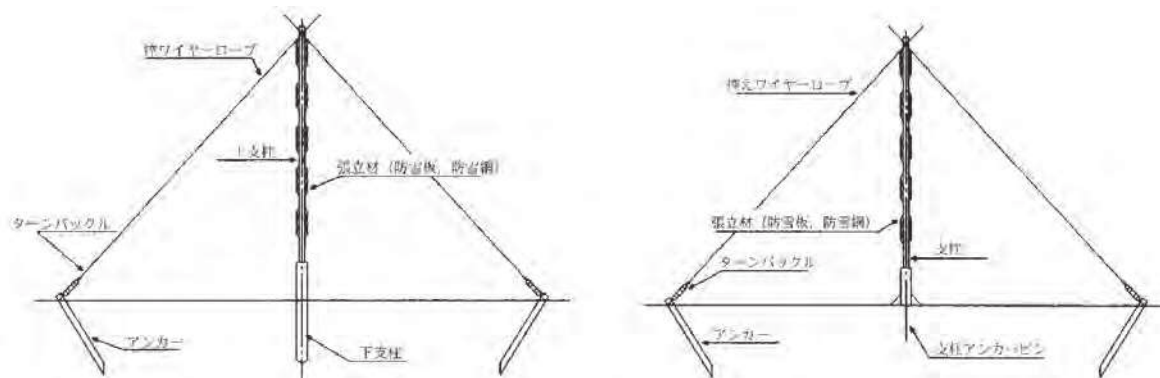
4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

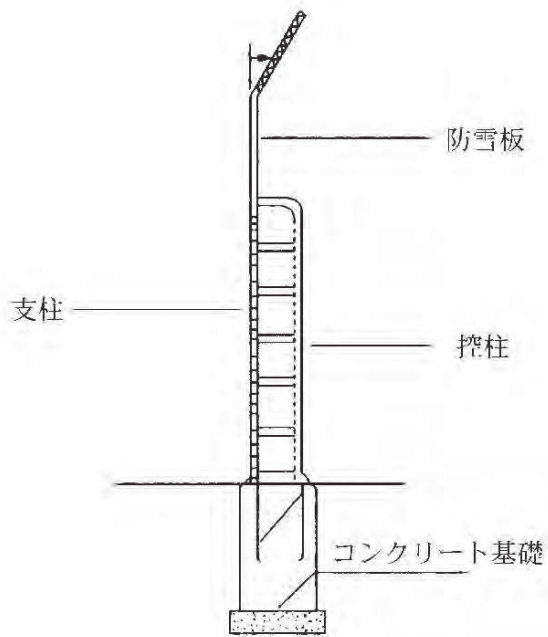
(1) 防雪柵（材料費）は、規格ごとに延長（m）を算出する。

5. 参考図（防雪柵の概念図）

(1) 吹溜式防雪柵（仮設式）



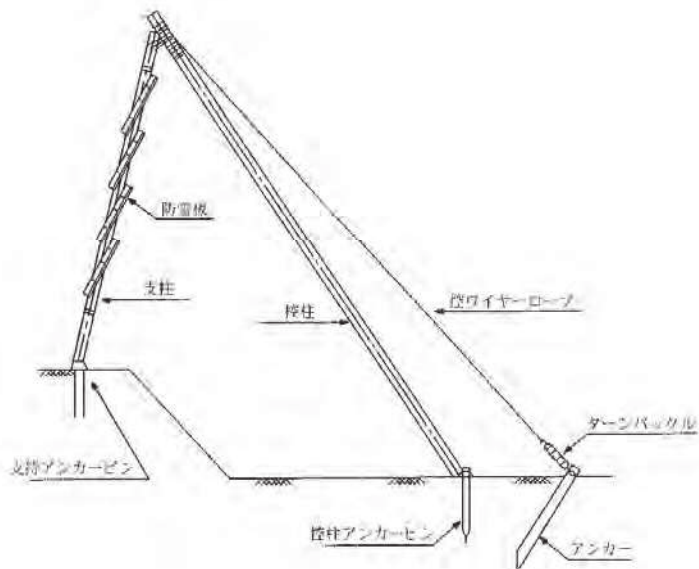
(2) 吹溜式防雪柵 (固定式)



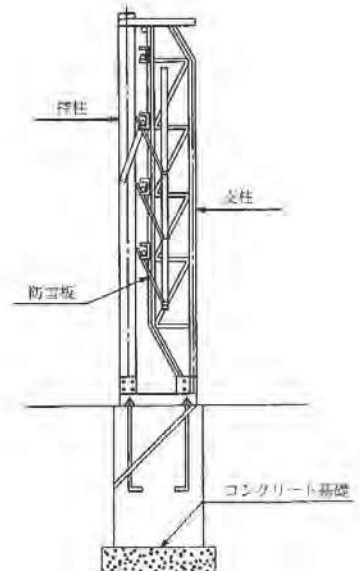
(3) 吹払式防雪柵 (仮設式)

(4) 吹払式防雪柵 (固定式)

(仮設式)



(固定式)



2. 2. 6 雪崩予防柵設置工

1. 適用

雪崩予防柵設置工に適用する。

2. 数量算出項目

雪崩予防柵、雪崩予防柵（材料費）、吊柵アンカー、パイプアンカー（材料費）、樹脂アンカー（材料費）、簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、柵種類、クレーン機種、持上範囲、吊柵アンカー規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

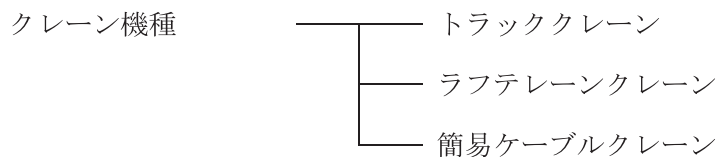
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報							
			規格	柵 種類	クレーン 機種	持上 範囲	吊柵 アンカー 規格	単位	数量	備考
雪崩予防柵		B	○	○	○	○	×	基		
雪崩予防柵 （材料費）		B	○	×	×	×	×	基		
吊柵アンカー		B	○	×	×	×	○	本		
パイプアンカー （材料費）		B	○	×	×	×	×	本		
樹脂アンカー （材料費）		B	○	×	×	×	×	本		
簡易ケーブル クレーン （1 t 吊）設置・撤 去		B	×	×	×	×	×	基		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

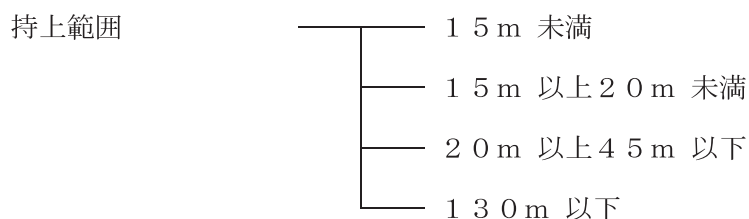
(2) 雪崩予防柵の柵種類による区分



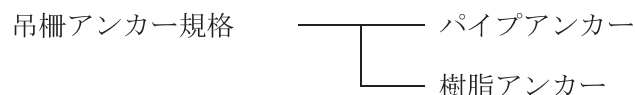
(3) 雪崩予防柵のクレーン機種による区分



(4) 雪崩予防柵の持上範囲による区分



(5) 吊柵アンカーの吊柵アンカー規格による区分は、以下のとおりとする。



関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
土工 (固定基礎工事)	A	m ³		必要な場合別途計上
コンクリート (固定基礎工事)	A	m ³		必要な場合別途計上
型枠 (固定基礎工事)	B	m ²		必要な場合別途計上
足場工 (固定基礎工事・法面作業 等)	B	掛m ²		必要な場合別途計上
基礎材 (固定基礎工事)	B	m ²		必要な場合別途計上

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

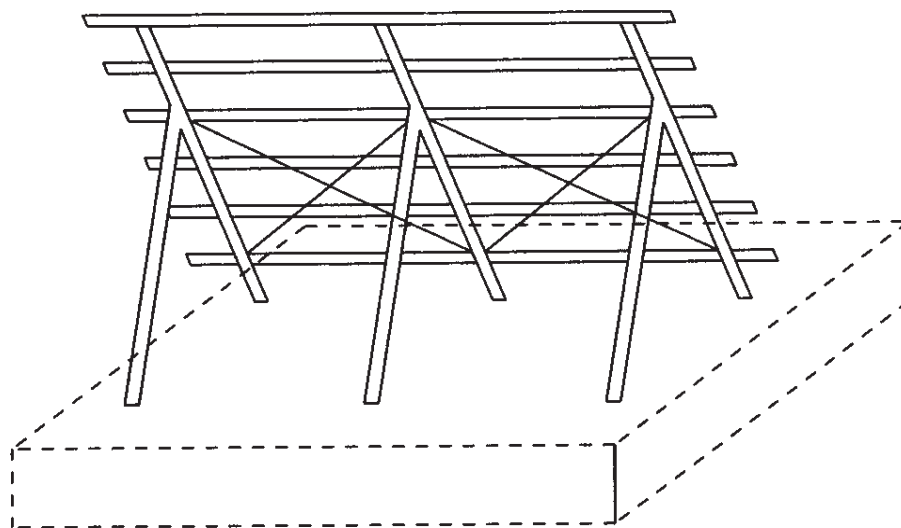
数量算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) 雪崩予防柵(材料費)は、規格ごとに基数を算出する。
- (2) パイプアンカー(材料費)又は樹脂アンカー(材料費)は、規格ごとに本数を算出する。
- (3) 持上範囲は、トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの場合は機械設置地盤からの最大持上げ高までの直高とし、簡易ケーブルクレーンの場合は資材仮置面から最大持上げ高までの直高とする。
- (4) 簡易ケーブルクレーンの設置基数は、現場条件又は、布設箇所への現場内小運搬等を考慮して決定する。

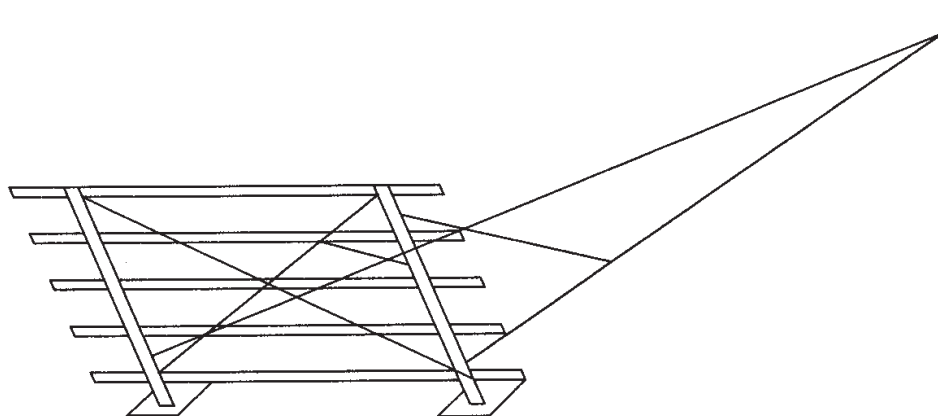
5. 参考図（雪崩発生予防柵設置工の種類）

雪崩発生予防柵の種類は下図のとおりである。

(1) 固定柵 — 固定基礎を有する柵



(2) 吊柵 — 固定アンカーを有しワイヤ等で柵を吊っているもの



2.2.7 防雪柵現地張出し・収納工

1. 適用

現地収納式防雪柵の現地張出し及び現地収納に適用する。

適用できる範囲

・下表に示す種類、収納方式、柵高、支間長の場合

防雪柵の種類及び高さ・支間長

種類	収納方式	柵高	支間長
吹払式 又は 吹止式	支柱・防雪板下部収納 (連動型・単動型)	5.5 m以下	4.0 m以下

2. 数量算出項目

防雪柵現地張出し・収納の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

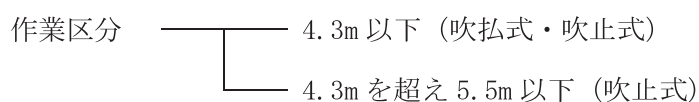
区分は、柵高 (m)、支間長 (m) 及び作業内容とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

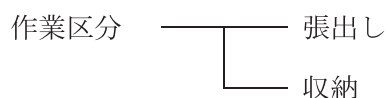
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			柵高 (m)	支間長 (m)	作業区分	単位	数量	備考
防雪柵 現地張出し・収納		B	○	○	○	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 柵高



(3) 防雪柵現地張出し・収納の作業区分



4. 数量算出方法

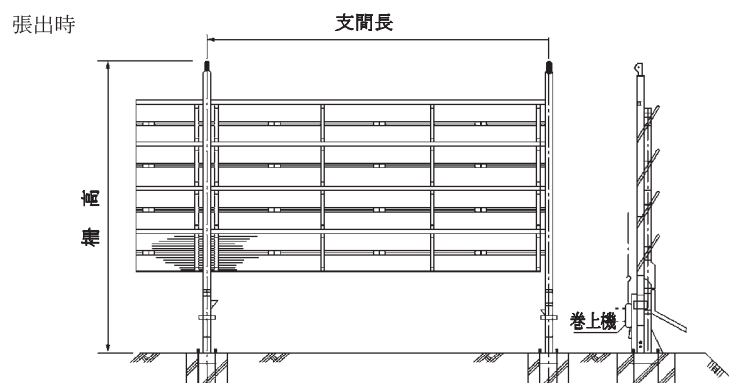
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 柵高は、張出し状態における支柱固定端から支柱・防雪板を問わず最上端となるまでの高さとする。

(2) 支間長は、支柱の中心間長さとする。

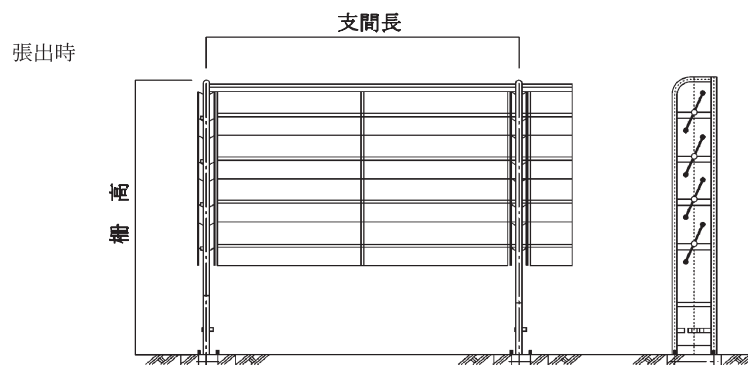
5. 参考図

(1) 吹払式 (連動型)



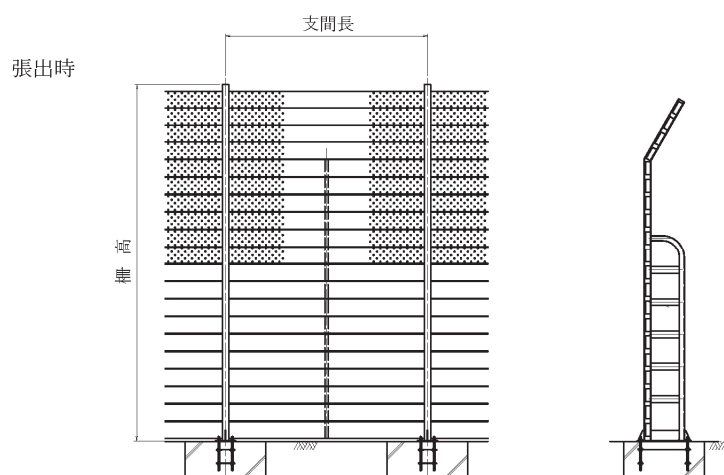
連動型：防雪板全数を同時に張出・収納するタイプ

(2) 吹払式 (単動型)



単動型：防雪板を一枚ごとに張出・収納するタイプ

(3) 吹止式 (連動型・単動型)



連動型：防雪板全数を同時に張出・収納するタイプ

単動型：防雪板を一枚ごとに張出・収納するタイプ